

Canon

EF-M28mm f/3.5 MACRO IS STM



IMAGE STABILIZER

JPN

使用説明書

キヤノン製品のお買い上げ誠にありがとうございます。

キヤノンEF-M28mm F3.5 MACRO IS STMは、手ブレ補正機能を備え、ポートレートや風景などの一般撮影から撮影倍率1.2倍までの近接（マクロ）撮影ができる、EOS Mシリーズカメラ用のマクロレンズです。

- ISはImage Stabilizer（手ブレ補正機能）の略称です。
- STMはStepping Motor（ステッピングモーター）の略称です。

カメラのファームウェアについて

- 本レンズをご使用になる場合は、カメラの最新ファームウェアをキヤノンのホームページで確認してください。カメラのファームウェアのバージョンが最新でない場合は、最新のファームウェアにアップデートしてください。
- ファームウェアのアップデート方法については、キヤノンのホームページで確認してください。

本文中のマークについて



撮影に不都合が生じる恐れのある注意事項などが書いてあります。



基本操作に加えて知っていただきたい事項が書いてあります。

安全上のご注意

安全に使っていただくための注意事項です。必ずお読みください。お使いになる方と他の人々への危害や損害の発生を防ぐためにお守りください。

警告 死亡や重傷を負う恐れがある内容です。

- 太陽や強い光源をレンズを通して直接見ないようにしてください。視力障害または失明の原因になります。
- レンズキャップを外したまま、レンズまたはレンズを付けたカメラを日光の下に放置しないでください。太陽の光が焦点を結び、火災の原因となることがあります。

注意 傷害を負う可能性がある内容です。

- レンズ前面のLEDライトを目に近づけて点灯したり、凝視したりしないでください。目を痛める恐れがあります。
- 製品を高温や低温となる場所に放置しないでください。製品自体が高温や低温になり、触れるとやけどやけがの原因となります。

注意 物的損害を負う可能性がある内容です。

- 直射日光下の車の中など、高温になるところにレンズを放置しないでください。故障の原因となることがあります。

一般的なご注意

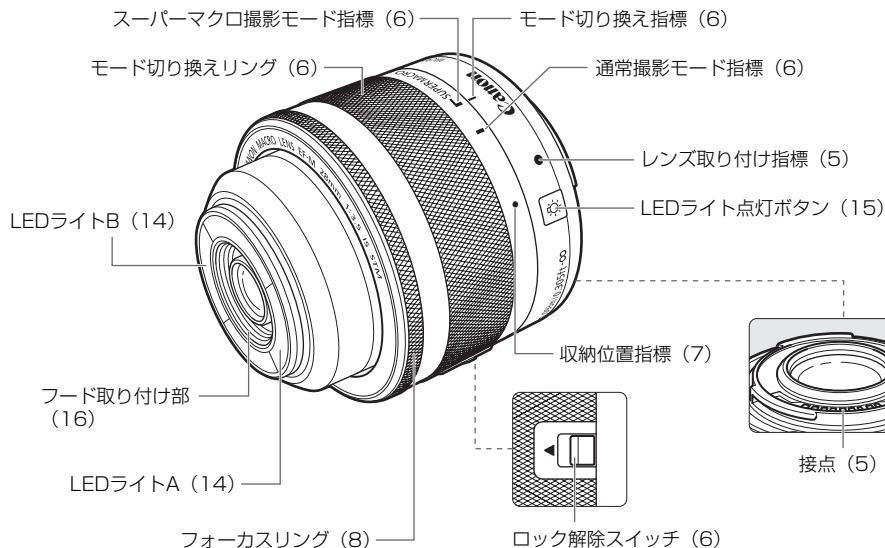
取り扱い上のご注意

- レンズを寒いところから暖かいところに移すと、レンズの外部や内部に水滴が付着（結露）することがあります。そのようなときは、事前にレンズをビニール袋に入れて、周囲の温度になじませてから、取り出してください。また、暖かいところから寒いところに移すときも、同様にしてください。
- カメラの使用説明書の取り扱いに関する記載もご覧ください。

撮影上のご注意

- LEDライトが消灯していても、反射しやすい被写体（腕時計のガラス面など）にレンズを近づけて撮影をすると、レンズ前面にある白色のリングが写り込むことがありますのでご注意ください。なお、フードを装着すると写り込みが防げます。

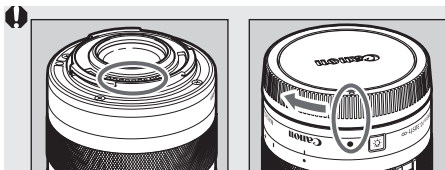
各部の名称



● (**) の**部は参照ページを示しています。

1 レンズの着脱

カメラにレンズを着脱する方法は、カメラの使用説明書をご覧ください。

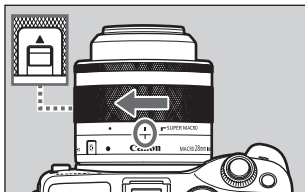


- レンズを外したときは、接点やレンズ面を傷付けないように接点を上にして置いてください。
- 接点に汚れ、傷、指紋などが付くと、接触不良や腐食の原因となることがあり、カメラやレンズが正確に作動しないことがあります。
- 汚れや指紋などが付着した場合は、柔らかい布で接点を清掃してください。
- レンズを外したときは、レンズキャップとダストキャップを付けてください。ダストキャップの取り付けは、図のようにレンズ取り付け指標とダストキャップの○の指標をあわせて時計方向に回します。取り外しは、逆の手順で行います。

2 撮影の準備とレンズの収納

〈撮影の準備〉

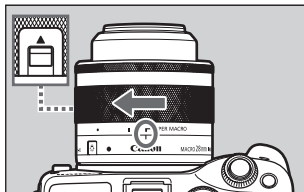
撮影をするときは、「モード切り換えリング」で通常撮影モードもしくはスーパーマクロ撮影モードに設定します。



通常撮影モード

通常撮影モードは、無限遠の撮影から等倍までの近接（マクロ）撮影ができます。

撮影の準備として、レンズ収納状態から「ロック解除スイッチ」を[▲]の方向に押しながら「モード切り換えリング」を回して「通常撮影モード指標」を「モード切り換え指標」に合わせます。

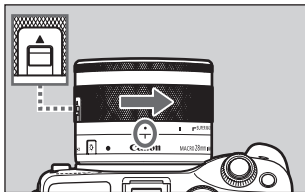


スーパーマクロ撮影モード

スーパーマクロ撮影モードは、撮影距離11cm～9.3cm、撮影倍率0.7倍～1.2倍までの近接（マクロ）撮影のみができます。

撮影の準備として、「ロック解除スイッチ」を[▲]の方向に押しながら「モード切り換えリング」を回して「スーパーマクロ撮影モード指標」を「モード切り換え指標」に合わせます。

撮影の準備とレンズの収納



〈レンズの収納〉

レンズを収納することができます。

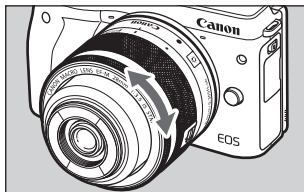
レンズの収納は、「ロック解除スイッチ」を[▲]の方向に押しながら「モード切り換えリング」を回して「収納位置指標」を「モード切り換え指標」に合わせます。

- 動画撮影の開始や静止画撮影ができるのは、「モード切り換えリング」を通常撮影モードもしくはスーパーマクロ撮影モードに設定した状態のみです。
- 動画撮影中に、「モード切り換えリング」を通常撮影モードから収納位置の方向へ回すと、動画撮影が終了します。
- 「モード切り換えリング」の状態によって撮影ができないときは、カメラの液晶モニターに警告が表示されます。
- 「モード切り換えリング」をロック状態のまま強引に回さないでください。ロック解除スイッチ機構が破損する恐れがあります。

撮影の準備とレンズの収納

- 撮影倍率とは、被写体の大きさと撮像面上の像の大きさの比率のことです。
- 撮影距離とは、カメラ上面の $[-\infty-]$ （撮像面マーク）から被写体までの距離のことです。
- 最短撮影距離の場合、レンズ先端から被写体までの距離（ワーキングディスタンス）は、通常撮影モードで1.8cm、またスーパーマクロ撮影モードで1.3cmです。

3 マニュアルフォーカス



カメラのフォーカスモードを [MF] に設定した場合は、フォーカスリングを手で回してマニュアル（手動）でピントを合わせます。

⚠ フォーカスリングを急回転させた場合、ピント調整が遅れることがあります。

- AF/MFは、カメラ側で設定します。カメラの使用説明書をご覧ください。
- カメラのフォーカスモードが [AF+MF] のときは、AF後にシャッターボタン半押し状態でフォーカスリングを回すと、任意にピントを調整できます。（フルタイムマニュアルフォーカス）

4 手ブレ補正機能

本レンズは、手ブレ補正機能を備えています。手ブレ補正機能を使用すると、撮影するときのわずかなカメラの動き（手の揺れ）を補正します。また撮影状況（静止した被写体の撮影、流し撮りなど）に応じた手ブレ補正を自動で行います。手ブレ補正機能の入/切は、カメラ側で設定します。カメラの使用説明書をご覧ください。



手ブレ補正「入」



手ブレ補正「切」

このレンズの手ブレ補正は、次のような条件の手持ち撮影で効果を発揮します。

- 近接（マクロ）撮影
- 夕景や室内など、薄暗い場所
- 美術館や舞台など、ストロボ撮影が禁止されている場所
- 足場が不安定な状況
- その他、速いシャッター速度が使用できない状況
- 移動する被写体を流し撮りする場合

手ブレ補正機能

- 撮影距離が短くなるにしたがい、手ブレ補正効果は低下します。
- 被写体が動いてしまう被写体ブレは補正できません。
- バルブ（長時間露光）撮影のときは手ブレ補正機能を「切」にしてください。「入」にすると手ブレ補正機能が誤作動することがあります。
- 大きく揺れ動く乗り物から撮影するときは、手ブレ補正効果が十分に得られないことがあります。
- 手ブレ補正機能を「入」にすると、「切」のときに比べて電池が消耗し、撮影可能枚数や動画撮影可能時間が少なくなります。



- 静止した被写体の撮影では、すべての方向の手ブレを補正します。
- 水平方向の流し撮りのときは上下方向の手ブレ、垂直方向の流し撮りのときは左右方向の手ブレを補正します。
- 三脚を使用した場合も支障なく撮影できますが、電池の消耗を防ぐため手ブレ補正機能を「切」にすることをおすすめします。
- 一脚を使用した場合も、手持ち撮影と同等の手ブレ補正効果がありますが、撮影条件によっては、手ブレ補正効果が低下する場合があります。

5 手持ちによる近接（マクロ）撮影について

カメラをしっかり構える

近接（マクロ）撮影を手持ちで行うときは、右のイラストのようにカメラをしっかり構えて手ブレやピント移動をできるだけ少なくして慎重に撮影してください。



両ひじを、机などで支えてください。

サーボAFで撮影する

近接（マクロ）撮影では、カメラの設定をサーボAFに設定して撮影することをおすすめします。詳しくは、カメラの使用説明書をご覧ください。

⚠ 近接（マクロ）撮影では、次のことに注意が必要です。

- 一般撮影よりも手ブレの影響が大きくなるため、手ブレ補正効果は少なくなります。
- 被写界深度が極めて浅くなるうえ、カメラの前後方向の動きにより、ピント移動が生じます。



カメラを持った腕のひじを、ひざで支えてください。



しっかりした壁などで、体と腕を支えてください。

6 近接（マクロ）撮影時の露出

露出の決め方

TTL測光により撮影するときは、レンズを透過した光の量を測るため、露出補正の必要はありません。すべての撮影距離で、TTL測光によりAE（自動露出）撮影ができます。任意の撮影モードを選択し、シャッター速度、絞り数値を確認して撮影します。

撮影倍率と実効FNo.

カメラに表示される絞り数値は、ピントが無限遠（ ∞ ）のときの数値です。実際の絞り（実効FNo.）は、撮影距離が近づく（撮影倍率が高くなる）にしたがって暗く（実効FNo.数値が大きくなる）になります。これは一般撮影の領域では露出にほとんど影響はありませんが、近接（マクロ）撮影の場合、実効FNo.の変化は無視できません。



- 近接（マクロ）撮影の適正露出の決定には、被写体条件が大きく影響します。そのため、できるだけ露出を変えて撮影するか、撮影画像をカメラの液晶モニターで確認しながら撮影することをおすすめします。
- 近接（マクロ）撮影時の撮影モードは、被写界深度や露出の調整のしやすい絞り優先AE（Av）またはマニュアル露出（M）をおすすめします。

近接（マクロ）撮影時の露出

単体露出計を使用して露出を決めるときは、次の露出倍数を加えて撮影してください。

通常撮影モード時

撮影倍率	0.5	0.7	1.0	1.2
撮影距離 (cm)	12.4	10.9	9.7	—
実効FNo.	3.9	4.0	4.1	—
露出倍数 (段) *	+1/3	+1/3	+1/3	—
	0	+1/2	+1/2	—

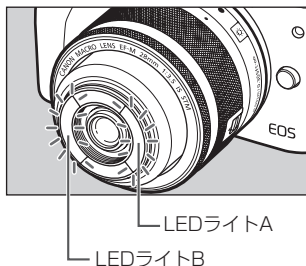
スーパーマクロ撮影モード時

撮影倍率	0.5	0.7	1.0	1.2
撮影距離 (cm)	—	11.0	9.7	9.3
実効FNo.	—	5.9	5.8	5.8
露出倍数 (段) *	—	1+1/3	1+1/3	1+1/3
	—	1+1/2	1+1/2	1+1/2

* 上段：1/3段表示 下段：1/2段表示

—：撮影不可能

7 LEDライト



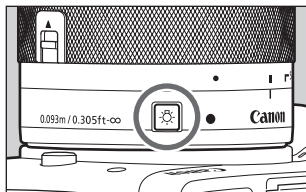
- カメラの電源が入っているときのみLEDライトは点灯します。
- LEDライトを使用するときは、フードを外してください。

LEDライトを片側点灯させることで、被写体に陰影をつけたり立体感のある写真が撮影できます。

レンズ前面のLEDライトは、近接（マクロ）撮影時に撮影補助光として被写体に光を当てるためのものです。LEDライトの発光部はレンズ前面の左右に2か所あり、同時に点灯させたりどちらか片側のみを点灯させることができます。

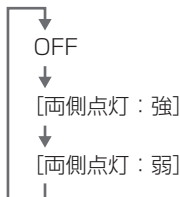
1. 「モード切り換えリング」を、通常撮影モードまたはスーパーマクロ撮影モードに設定します。
2. LEDライト点灯ボタンを押してLEDライトを点灯させます。

LEDライト



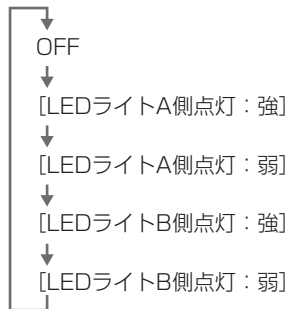
■ LEDライト両側点灯

LEDライト点灯ボタンを短く押すたびに、LEDライト両側点灯のON/OFFと強弱を切り換えることができます。



■ LEDライトA / B片側点灯

- LEDライトが消灯している状態で、LEDライト点灯ボタンを長押しすると片側点灯します。
- 片側点灯のとき、LEDライト点灯ボタンを短く押すたび、片側点灯の状態が切り換わります。



■ LEDライト両側点灯と片側点灯の切り換え

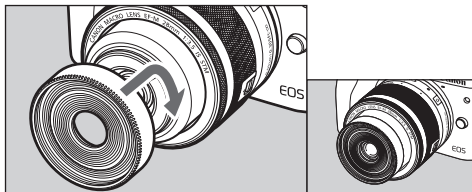
- LEDライトが点灯している状態で、LEDライト点灯ボタンを長押しすると、両側点灯と片側点灯が切り換わります。

LEDライト

- LEDライトは、撮影補助光として近接（マクロ）撮影時にカメラやレンズによってできる被写体のかげりを改善するためのものです。暗い場所で十分な光を当てて撮影するためのものではありません。
- カメラの節電機能（オートパワーオフ）で電源が切れると、LEDライトも消えます。
- カメラの電源を切ったりレンズを収納状態にして一度LEDライトを消すと、点灯状態は記憶されません。
- LEDライトを点灯させると、点灯させないときにくらべて電池が消耗し、撮影可能枚数や動画撮影可能時間が少なくなります。
- フードを装着するとLEDライトが隠れて点灯状態がわからないため、消し忘れにご注意ください。
- シャッターボタンを半押しした後、LEDライトの点灯状態を切り換えて撮影をしないでください。シャッターボタンを半押ししたときに露出が固定されるため*、その後にLEDライトの点灯状態を切り換えると、標準露出での撮影ができない場合があります。

* カメラの測光設定やAFの設定によって異なります。詳しくはご使用のカメラの使用説明書をご覧ください。

8 フード



レンズフードES-22には、次の役割があります。

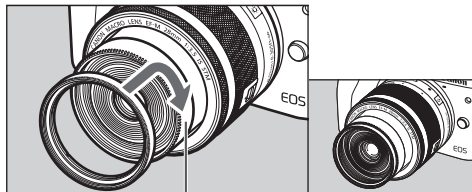
- 有害光線をカットするとともに、雨・雪・ほこりなどからレンズ前面を保護します。
- レンズ前面の白色リングの写り込みを防ぎます。
- フィルター使用時のアダプターになります。

フードは、レンズ先端のネジ部に正しくしっかりと取り付けます。

- フードを斜めに取り付けると、レンズの外観に傷をつけることがあります。
- フードが正しく取り付けられていないと、撮影画面にケラレが生じることがあります。
- LEDライトを使用するときは、フードを外してください。

📷 レンズにフードが装着されていても、フードの前面にレンズキャップを取り付けることができます。

9 フィルター（別売）



フード

フィルターは、フード先端のフィルター取り付けネジ部（Φ43mm）に取り付けます。

1. フードを取り付けます。
2. フードの前面にフィルターを取り付けます。

- フィルターはフードを取り付けていない状態では使用できません。
- フィルターは1枚のみ使用できます。

主な仕様

焦点距離・明るさ	28mm F3.5
レンズ構成	10 群 11 枚
最小絞り	F22
画角	対角 51° 55'、垂直 30° 10'、水平 44° 10'
最短撮影距離	0.097m（通常撮影モード時）、0.093m（スーパーマクロ撮影モード時）
最大撮影倍率	1 倍（通常撮影モード時）、1.2 倍（スーパーマクロ撮影モード時）
画界	約 15.0 × 22.4mm（通常撮影モード 0.097m 時）、 約 12.5 × 18.7mm（スーパーマクロ撮影モード 0.093m 時）
フィルター径	43mm（フード ES-22 装着時）
最大径×長さ	60.9 × 45.5mm（レンズ収納時）
質量	約 130g
フード	ES-22
レンズキャップ	EF-M28
ダストキャップ	レンズダストキャップ EB
ケース	LP811（別売）

- 35mmフォーマット換算での焦点距離イメージは45mmとなります。
- レンズの長さはマウント面からレンズ先端までの寸法です。付属のレンズキャップおよびダストキャップをつけたときの長さは、フード装着時に寸法表示+25.8mm、フード未装着時は寸法表示+20.0mmになります。
- 大きさ・質量表示は本体のみの値です。
- エクステンダーおよびエクステンションチューブは使用できません。
- 絞り値はカメラ側で設定します。
- 記載データはすべて当社基準によります。
- 製品の仕様および外観の一部を予告なく変更することがあります。

修理対応について

1. 保証期間経過後の修理は原則として有料となります。なお、運賃諸掛かりはお客様にてご負担願います。
2. 本製品の修理対応期間は、製品製造打切り後7年間です。なお、弊社の判断により修理対応として同一機種または同程度の仕様製品への本体交換を実施させていただく場合があります。同程度の機種との交換の場合、ご使用の消耗品や付属品をご使用いただけないことがあります。
3. 修理品をご送付の場合は、撮影された画像を添付するなど、修理箇所を明確にご指示のうえ、十分な梱包でお送りください。

キヤノンEFレンズホームページ

canon.jp/ef

キヤノンお客様相談センター

050-555-90002 (直通)

受付時間〈平日/土/日/祝〉9:00 ~ 18:00

(1/1~3は休ませていただきます)

※ 海外からご利用の方、または050からはじまるIP電話番号をご利用いただけない方は043-211-9556をご利用ください。

※ 受付時間は予告なく変更する場合があります。あらかじめご了承ください。

